



こんにちは

日本共産党

# 西野さち子です

## くらしの目線で市政を変える

### 焼却灰溶融施設建設 市議会で訴訟和解に

京都市議会11月議会が12月8日に終わり、17日に府市会の議会報告会が開かれました。11月議会に提案された大きなものは、焼却灰溶融施設建設の訴訟が全会一致で和解案が可決されたことです。京都市は2005年に住友重機械工業と工事契約を締結し、工事が動き出しました。日本共産党市会議員団は、計画がわかったときから全国状況を調査し研究してきました。そして、灰溶融はまだ開発途上の技術であることと、経費が非常にかかることがわかり、反対をしてみました。西野さち子市議は、機会のある度に質問を繰り返してきました。案の定、試運転中に基準の42倍のダイオキシンを発生させたり、耐火煉瓦が崩れたり、トラブル続きでした。当初の予定は2010



年6月から本格稼働でしたが、2013年8月にまだ完成させることができず、京都市は契約解除をしました。そし



て、京都市が損害賠償請求の訴訟を起こし、住友重工は工事代金の支払いを求めた。1審は京都市の敗訴でした。今回、大阪高

裁で住友重工が和解金154億円を支払うという和解案が示されました。遅滞損害金23億円はすでに京都市が受け取っていますから、合計177億円を住友重工が払うこととなります。溶融施設の除却が9億円まであれば市の損害はありません。しかし、当初の計画を推し進めた市長の責任は重大です。灰溶融計画をあきらめていませんから、きっぱり断念するまで頑張ります。以上が西野市議の報告の概要です。

### 総選挙後の国会報告会

総選挙後の特別国会が終了し、穀田恵二衆議院議員、井上哲参議院議員、倉林明子参議院議員の国会報告会が開かれました。井上参議院議員からは北朝鮮問題での報告がありました。国連での各国首脳議論は「圧力をかけつつも対話が必要だ」と言うもの。安倍首相の「対話のときではない。圧力が必要」と言うのは異常だと言うことがよく判りました。また、倉林参議院議員

からは「差し押さえで、生活費(世帯主10万円、家族一人4万5千円)

について差し押さえしてはならないと国が認めた。翌日から相談窓口が大きく変化し、相談員から制度の説明をするようになった」と報告がありました。倉林議員の質問が中小零細業者の営業とくらしを守っている重要な議席だと言うことを実感しました。

### 高速道路は京都市にいらぬ

京都市の「第3回将来道路ネットワーク研究会」が開かれ、京都駅西側の堀川通りの渋滞を解消することが必要だとの議論がありました。第1回目から南北の交通渋滞緩和が必要だと言われてきましたが、今回はこれまでの議論を取りまとめると言う形で開かれました。

この堀川通りの議論は、一旦廃止の方向が示されている高速道路の復活にならないか危惧されています。高速道路計画は1200億円規模です。少しの渋滞を解消するために、地下バイパスの計画でした。高速道路より、市民生活が優先される必要があります。

